

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.202

発行: 令和5年6月1日

講習会のご案内 (お申込み・受付は前月の20日から)

講習会は、午後1:30~3:30 詳細は、広報旭川市民「あさひばし」掲載

「フラワーハンギングバスケット作り」

日時 令和5年6月18日(日) 定員10名

参加費4,000円

講師: フラワーマスター 山本 裕美さん

※講座の受付は、5月20日(土) 午前9時~

「山野草講座」~寄せ植え作り~

講師: 園芸家 森下 光晴さん

令和5年5月14日(日) 山野草講座の実習の様子と受講者7名の作品をご紹介します。



~講師の作品~



~受講者の作品~

「神楽岡公園 夏の自然観察会」

~夏の園内を探索しよう~

日時 令和5年8月12日(土) 定員15名

講師 森の写真家 阿久津 弘明さん

森林インストラクター

佐藤 まゆみさん

※講座の受付は、7月20日(木) 午前9時~



緑のセンターまつり 2023

「自然の潤いに満ちた生活」をテーマにした、楽しいイベントです♪
屋外と屋内で賑わいと、植物の魅力をみなさんへ、お届けいたします 🌸

令和5年6月24日(土) 午前10時~午後4時 場所: 神楽岡公園 緑のセンター内及び屋外周辺+宮前公園

ステージイベント

- ・健康体操はじめるよ
- ・チンドン屋春月がやってくる~
- ・社から丘で実験ショー
- ・丸太切り大会
- ・アンケートに答えて抽選会

事前申し込み 講習会・自然観察会

1. 夏花寄せ植え講座 定員15名
2. 観葉植物寄せ植え講座 定員15名
3. 自然観察会(ガーデン、宮前、神楽岡) 定員20名
※開催前日までに、緑のセンターまで、お申し込み下さい。
お問合せ: 神楽岡公園 緑のセンター 0166-65-5553

屋外販売会(花・土・飲食など)

旭川農業高校生活科学科、グリーンテックス株式会社、赤平オーキッド ほか、飲食売店もあるよ~

宮前公園でも、モバイルスタンプラリーなど、やってるよ~♪

【休館日のお知らせ】

4月~10月は、第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~3月は、毎週月曜日が休館日です。(")



6月の園芸作業

1、鉢花・草花・球根類

- **チューリップ**などの秋植え球根は、花が終わったら花柄摘みを行い、葉は刈り取らず、球根の肥大を図ります。
- **ダリア**、**グラジオラス**などの春植え球根は植え付けの適期です。
- **ポインセチア**は剪定し、植え替えの時期です。植え替え後2週間までは水やりのみ、新芽が発生したら液肥を与えましょう。
- **ハイビスカス**、**フーゲンビシヤ**、**クチナシ**など植え替えの適期です。根鉢を1/2~1/3程度くずし、新しい培養土で植えこみましょう。

2 庭木・果樹類

- **ツツジ**、**シャクナゲ**、**ライラック**などは花後すぐが剪定の時期です。剪定後に肥料(お礼肥)を施します。
- **リンゴ**、**ナシ**はなるべく早く一箇所から出た複数果実のうち形が良く大きい果実を1つ残します。**フラム**や**フルーン**は果実がぶつからない程度に摘果しましょう。
- モモシンクイガの発生が多くなるので、**リンゴ**、**ナシ**は袋掛け(6月下旬~7月上旬)をし、**スモモ**類は定期的に殺虫剤を散布しましょう。

3 観葉植物類

- 観葉植物の**カポック**など節間が伸び乱れた株は切り戻して剪定し、取り木をする時期です。また、根詰まりしている鉢は植え替えの適期です。

4 多肉植物・サボテン類

- **シャコバサボテン**、**クジャクサボテン**などは外に出し、太陽の光を十分に当てましょう。
- **カランコエ**、**カネノナルキ**など多くの種類で植え替え、株分けの適期です。



7月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

- **パンジー**、**テージー**は来年の春花壇用に下旬頃までに種を播きましょう。
- 春植え球根の**ダリア**、**カンナ**、**グラジオラス**などは盛んに生長しているので、支柱を立て、開花後は花柄摘みをしましょう。
- **フーゲンビシヤ**は開花期です。開花後、新梢が伸びたら順次切り戻し、水やりを控え、日当たりの良い場所で管理しましょう。
- **ポインセチア**は生育が盛んな時期です。肥料と水は切らず、日光に十分当てましょう。
- **四季咲きベゴニア**の伸びた茎をピンチ(切り戻し剪定)することで新芽が伸び、その先々に花を咲かすことができます。

2 庭木・果樹類

- 針葉樹の枝は葉がついていないと枯れやすいので、深刈り強剪定はやめましょう。
- **ライラック**、**レンギョウ**、**フジ**、**ツツジ**などは花芽ができる時期です。リン酸、カリの多い肥料を与えます。
- 果樹類は病気や害虫などの発生が多くなるので殺虫・殺菌剤の散布が必要です。**リンゴ**、**ナシ**には黒星病、炭疽病。**スモモ**は灰星病。害虫ではシンクイムシなどの発生が多くなります。

3 観葉植物類

- 成長が盛んな時期です。水と肥料を十分に与えましょう。植え替え、挿し木などの作業は早めに済ませましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- **クジャクサボテン**は直射日光に十分当て肥培管理し茎を太らせましょう。
- **多肉植物**は、挿し木の好適時期です。寄せ植え作りも楽しめます。

〈我が家の庭づくり〉 初夏編 庭の草取り方法

《庭の除草のメリットと作業時のポイント》

1. 庭・花壇にとって大切な作業の一つである除草を行うことのメリット

- ① 庭の景観(見た目)がきれいになる
- ② 土の中の栄養分を育てたい植物にしっかり行きわたらせることができる
- ③ 土壌(庭土)の通気性が良くなり、庭を清潔に保つことで病害虫の予防にもつながる

2. 除草を行う際は次のポイントに注意して作業しましょう

① 根っこからしっかり取り除く

雑草は地上部だけをむしり取ってもすぐ復活してきます。ハンドホーや移植ゴテを利用して**根から取り除く**除草を継続すれば徐々に減っていきます。

② 小さな雑草を見逃さないこと

小さな雑草も大きくなる前に取り除くことで、土の中の栄養分を効率的に育てたい植物に与えることができます。雑草が大きくなると、大切に育てている植物と一緒に抜けてしまうことがあるので、小さいうちに処理しましょう。

③ 初心者の方は植えた物以外は全て抜く

種が外から飛んできたものやこぼれ種で増えたものは、すぐ増え過ぎてしまい、大切な植物が無くなってしまうこともあります。たとえ宿根草の芽であっても、必要な株以外は**心を鬼にして**見つけ次第すべて抜き取りましょう。



こぼれ種で増えた宿根草



根までしっかり抜き取る



除草作業のアイテム

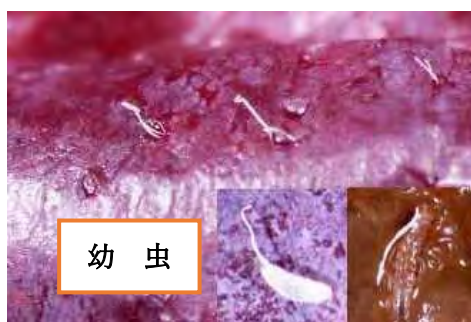
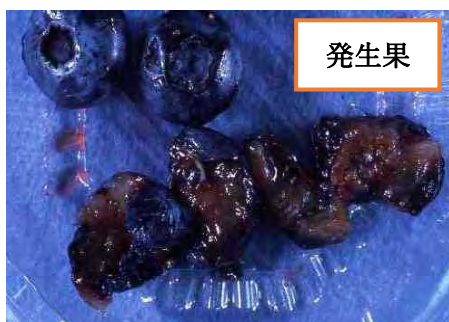
植物の害虫 その73

ブルーベリーの オウトウショウジョウバエ

平成 17 年9月、富良野市で果実内部がウジ状幼虫に食害を受けたブルーベリーが確認され、羽化した成虫によってオウトウショウジョウバエによる被害と同定(中央農試 岩崎氏)されました。

成虫の体長は約3mm。色は暗黄褐色で雄には翅頂近くに小黑紋があります。雌の尾端には産卵器の鋸歯状突起があります。卵は長径0.5mm 内外で、幼虫は体長6mmに達する白色のウジ状です。キイチゴ、モモ、サクラ、ブドウ等の熟果に寄生することも知られています。

防除する際の登録農薬は、合成ピレスロイド系の「商品名:アディオンプロアブル」一剤に限られています。希釈倍率は 2,000 倍。収穫する前日まで防除に使用することができます。防除時期は6月下旬～7月上旬に7日おきに2回散布します。被害を軽減するためには、「適期収穫」の励行と、取り残された「果実や被害果などが翌年の発生源」になるので、放置しないで掃除することが大切です。



シャクヤクの花後の管理

シャクヤク(芍薬)は一見、ポタン(牡丹)に似た美しい大輪の花を咲かせますが、冬になると地上部の茎葉が枯れて根の状態です。休眠することから「草」に分類され、ポタンは地上部が残るので「木」に分類されています。

シャクヤクは暑さ・寒さに強く、比較的丈夫で育てやすいので、切り花だけでなくガーデニングでも人気がありますが、毎年、茎葉を真っ白にして株を傷めている事例が散見されます。来年も立派な花を咲かせたいものです。



翌年も花を楽しむために

シャクヤクは晩秋に地上部を枯らしますが、しっかり蓄えられた株の養分を使って春には芽を出し、豪華な花を咲かせます。株に養分を蓄えるためには①終わった花柄をとり、②健康な茎葉を長く維持することが大切です。早々に茎葉の機能を失ってしまうと株に養分を蓄えられなく、弱ってしまうことになります。

- ① 「芽出し肥」や「お礼肥」・・・植え付け時に元肥を混ぜ込み、①融雪後に「芽出し肥」、②6月の花後に「お礼肥」、③お盆頃に緩効性肥料を少量与え、健康な茎葉を長持ちさせる手助けをします。
- ② 病害虫の被害を防ぐ・・・日当たりや風通し、排水が悪い場合は、葉が白くなる「うどんこ病」や「灰色かび病」などの病気が発生します。地上部が侵されると年々衰弱して枯死することにもなるので、病気が心配される場合は、予防・治療する薬剤(参考例=予防薬:ダコニー1000、発病初期:カリグリーンなど)を散布してまん延を防ぎます。また、花が咲かなくなった場合には、ヨウトウムシなどの幼虫やネコブセンチュウが根を傷めていることが考えられます。株を掘り起こして確認してみましょう。
- ③ 増やし方・・・大株になったら 9～11 月に株分けして増やすことができます。根の周りの土を落とし、それぞれの株に2つ以上の芽がつくように根をハサミで切り分けます。切り口を殺菌剤や草木灰に浸して消毒してから苗植えと同じように植え付けます。鉢植えにする用土は園芸用培土でも良いですが、自分で用土を作る場合は、「赤玉土4+鹿沼土4+腐葉土2」の割合で混合して使用します。

展示室の植物 (108)

シコンノポタン

学名: *tibouchina urvilleana* ノボタン科 シコンノボタン属

日本にも自生する野牡丹はありますが、シコンノポタンはブラジル原産の常緑低木で、観賞用として栽培されています。名前の由来は「ノボタンで、なお紫紺色だったから～」とのこと。一般的には鉢植えで流通していますが、緑のセンターでは温室に地植えしていることから最大3mほども伸びるので支柱でサポートし、剪定しながら樹形を整えています。

開花時期は夏から晩秋。花は濃い紫色をしており雄蕊は紫色で長く不規則にカールしています。一日花なので寿命が短いですが、蕾を次々とつけて咲き続けます。これからの鑑賞時期になります。

